

編集 後記

日本公衆衛生雑誌第54巻第1号をお届けします。今号では、難病・特定医療受給者の発病年齢や受給状況に関する精緻な記述疫学的解析、健康寿命延伸を目指した実践、介護予防に資する全国的解析といった公衆衛生活動の指針となる貴重な情報が発信されています。お知らせしておりますとおり、編集委員会では、電子メール等を取り入れた編集・査読システムを適宜改善し投稿から掲載までの期間短縮化に努めています。一方で、初回投稿階では論文としての体裁が整わず、論文の構成や形式上の修正依頼とその改訂に相当な時間が費やされることもあります。日本公衆衛生雑誌投稿規程にも、投稿に当たって留意していただきたいことを記しておりますので、ぜひご確認ください。また、公衆衛生活動・研究論文の書き方研修のご案内も出されております。貴重な活動や研究の成果を効率よく発信していくために、皆様の研鑽にも期待いたします。雑誌のサイズがA4版に拡充されるにあたり、公衆衛生関連情報の掲載や、関連分野毎のトピックスや特集企画など、魅力ある紙面づくりに向けて議論が交わされています。会員の皆様による本誌の積極的なご活用を願う次第です。(堤 明純)

2号予告(第54巻・第2号)

総説

Health Impact Assessmentの基本的概念および日本での今後の取り組みに関する考察

.....藤野善久, 他

原著

在宅要介護高齢者の日常生活動作能力維持に有効な介護サービス利用とは

Functional Independence (FIM)を用いた縦断研究.....鈴木育子, 他

中学生の間食選択に関する食態度の検討

「間食選択動機」調査票の作成...赤松利恵, 他

横断的調査による「女子中学生の視力低下」の要因分析.....柊勇三郎, 他

資料

全国の市区町村における健康日本21による歯の健康に関する項目の現状把握と目標達成に関する調査結果.....山口 恵, 他

日本公衆衛生学会生涯学習・研修委員会 主催 「公衆衛生活動・研究論文の書き方研修」のご案内

下記の日程で、公衆衛生活動・研究論文の書き方研修(3日間)の開催を予定しています。受講を希望される方は、平成19年度の年間計画など立案時に加えていただければ幸いです。

期 日: 2007年7月下旬—8月上旬(決まりしたい掲載いたします)

主 管: 滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門

場 所: 滋賀医科大学マルチメディアセンター

受 講 者: 40名程度、地方自治体の保健医療職などを優先するとともに、幅広い分野から構成する予定です。

受講条件: Windows(Excelなど)を基本的に使用できる人

研修費(予定): 日本公衆衛生学会会員5,000円 非会員15,000円

研修会の内容: 公衆衛生活動・研究の立案から評価、さらに論文・報告書作成にいたる一連の過程を学習し、その技法と考え方の習得を目指します。公衆衛生活動・研究の計画・評価に必要な疫学・統計の講義、グループワークを通じた計画書作成の実習、SPSSを利用した簡単な統計演習(t検定、カイ二乗検定、交絡の調整、さらに論文・科学的な報告書の書き方のレクチャーなどを含んだものとなる予定です。

申込方法: 日本公衆衛生雑誌4月号に掲載の予定です。

日本学術会議パブリックヘルス科学分科会企画シンポジウム
「衛生・公衆衛生学における学術研究と個人情報保護
—疫学研究・統計調査の円滑な推進とデータの有効活用のために—」

期 日：平成19年 3 月28日(水)14：00～17：00

場 所：大阪国際交流センター（日本衛生学会総会2007 開催会場）

プログラム

開会挨拶 岸 玲子（北海道大学大学院医学研科社会医学専攻予防医学講座）

I 現在の論点，疫学調査での現状と課題

座長：徳留信寛（名古屋市立大学大学院医学研究科健康増進・予防医学分野）

小林章雄（愛知医科大学医学部衛生学講座）日本学術会議における検討の経緯と論点

山縣然太郎（山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学）疫学・統計調査の現状と課題

大島 明（大阪府立成人病センター調査部）地域がん登録について

II 環境・職域保健領域の問題

座長：相澤好治（北里大学医学部衛生学公衆衛生学講座）

村田勝敬（秋田大学医学部社会環境医学講座環境保健学分野）環境保健とコホート研究

圓藤吟史（大阪市立大学大学院医学研究科産業医学・都市環境医学）

産業保健における健康情報の活用

毛利一平（独立行政法人労働安全衛生総合研究所）職業性疾患の疫学・統計調査の課題

III 政府統計資料活用の問題と今後の全体的な課題（総合討論）

座長：小林廉毅（東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野）

筈島 茂（国立保健医療科学院公衆衛生政策部）政府統計資料等の有効活用について

指定発言

中山健夫（京都大学大学院医学研究科社会医学系専攻健康情報学分野）

シンポジストおよび参加者での討論

閉会挨拶 實成文彦（香川大学医学部人間社会環境医学講座）

四国愛媛へおいでんか



左上:松山城 右上:しまなみ海道 中:道後温泉

第66回

日本公衆衛生学会総会

2007年10月24日(水)→26日(金)

地域保健—その原点に返り未来を展望する—

総会会場 愛媛県県民文化会館 愛媛県総合社会福祉会館 愛媛看護研修センター

学会長 小西正光 愛媛大学大学院医学系研究科教授(公衆衛生・健康医学)

特別講演
(予定)

講師:早坂 暁 先生

脚本家、作家として様々なドラマ、時代劇に携わり、代表作に、「空海」「夢千代日記」「千年の恋ひかる源氏物語」「ダウNTOWN・ヒーローズ」「花へんろ」等がある。また、愛媛県出身で「四国遍路」に関する作品も多い。

講師:辰濃 和男 先生

日本エッセイスト・クラブ理事長。元朝日新聞論説委員として「天声人語」を13年間執筆され、著書には「四国遍路」「歩き遍路」「文章の書き方」などがある。